

令和4（2022）年度 第1回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和4（2022）年6月2日（木） 午後6時30分～午後7時45分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4-3、4-4会議室
- * 出席委員 8名 長谷川智委員、片桐秀樹委員、山崎高美委員、前澤佳奈子委員、遠山みちる委員、松谷久美子委員、川本浩子委員、猪爪拓也委員
- * 欠席委員 1名 土田由紀委員
- * 事務局 9名 宮崎靖彦教育部長、【学校教育課】池田弘課長、小山勲課長代理、平野克之副主幹、横田則子主査、樋口希主事【保育課】栗林弘至課長代理【商業観光課】佐藤駿介主事、土田洸希主事

1 開会 司会：小山課長代理

本日、8名の委員から出席いただいております、かしわざきこども大学運営協議会設置条例第6条第2項に規定の委員の過半数を満たしていることを報告する。

2 挨拶 長谷川会長

本日はお忙しい中お集りいただき感謝。前回の開催から3か月が経過し、早いと感じる。3月の会議では、事業の存続について様々な意見が出された。本日も多くの意見を期待する。また、年度が替わり委員や事務局の入れ替えもあった。後程自己紹介をお願いしたい。本日もよろしくお願いしたい。

- ・猪爪委員自己紹介
- ・宮崎教育部長、土田主事、樋口希主事自己紹介

3 議事 進行：長谷川会長

(1) 令和3年度（2021年度） 決算について 【事務局】

① コース全体について

資料 令和3年度（2021年度）かしわざきこども大学決算書に基づき説明。

② こどもの笑顔創造プロジェクト補助金

交付対象10団体。新型コロナウイルス感染症の影響で事業の縮小や変更があったため、補助金の確定額は2,206,000円となった。

－質疑・応答－

【委員】 いきいきゲームのキャンセル料30,600円について、どれくらい前にキャンセルとなったのか。

【事務局】 ウィルシードの規定では1か月前までキャンセル料はかからないが、急激に感染者が増えてきた時期と重なり、2週間を切った頃であったためキャンセル料が発生した。

(2) 令和4年度（2022年度） 実施予定事業、予算について

・各コースの概要、予算について 【事務局】

今年度も昨年度と同様、7つのコースと事業を実施予定。今後、科学・実験コースとドリームコースは実施者の公募を行う予定。

・各コースの実施計画等について

① 自然体験コース 【事務局】

計30園、5月から12月まで実施予定。今年度は、はまなす特別支援学校高等部からも参加の打診があった。日程等は今後調整予定。

② キャリア教育コース 【事務局】

いきいきゲームについて、昨年度の申し込みは4校16クラス。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、東中学校1学年が中止となった。今年度実施予定学校は、4校10クラス。本来は中学生を対象としており、基金の残額も少ないことから、柏崎小学校の参加は遠慮いただいた。

③ ロボット工作コース 【事務局】

ロボット工作クラブは、昨年度と同様の5校で実施予定。先日見学した荒浜小学校では、大学生が張り切って指導している姿が見られた。昨年度交流競技会と工作教室は実施できなかったが、今年度は是非実施したい。

④ こどもの笑顔創造プロジェクト 【事務局】

計10団体から交付申請・決定 補助金合計 2,464,000円

⑤ 学校教育活動推進事業 【事務局】

昨年度はコロナ禍ではあるものの、計画や実施方法を工夫しなんとか実施できていた。今年度も工夫を続けながら教育活動を推進していけるよう支援していきたい。

－質疑・応答－

【委員】 キャリア育成コースについて、近年参加校が固定されてきていたが、瑞穂中学校が久しぶりに参加するのは市から何か働きかけがあったからか。

【事務局】 案内方法は例年と変えていない。修学旅行などの行事がなくなったときの代替活動、または経験のある先生が赴任してきた可能性も考えられるが、詳しいところはわからない。

【委員】 たんねのあかりについて、今年度の鯨波小学校の学校教育活動推進事業には中止とある。今年度はやらないということか。

【事務局】 詳しい情報がない。

【委員】 こどもの笑顔創造プロジェクトの鯨波小学校区教育活動運営協議会の活動内容には、たんねのあかりPR活動と記載がある。学校教育活動推進事業ではなく、こどもの笑顔創造プロジェクトで参加するということなのか、たんねのあかり自体が今年度は中止なのか。

【事務局】 こどもの笑顔創造プロジェクトの鯨波小学校区教育活動運営協議会は、例年たんねのあかりに参加しており、それに関して予算立てをしている。今年度たんねのあかりが開催されるか否かの情報はないが、もし中止されるのであれば学校教育活動推進事業と同じようにこどもの笑顔創造プロジェクトの活動内容からも変更がされ

るものと考えられる。お金の出しどころのすみ分けをしてこのような記載となった可能性もある。内容については確認したい。

【委員】 上米山地区の自然体験活動も、学校教育活動推進事業とこどもの笑顔創造プロジェクトで重複して記載がある。同じ活動内容が複数の事業に記載されていると、予算はどちらなのか等疑問が生じる。昨年までは学校教育活動推進事業のなかに上米山地区の自然体験活動は載っていなかった。

【事務局】 こどもの笑顔創造プロジェクトの活動内容を比較してみると、昨年度は鯨波地区、今年度は上米山地区を対象に活動を行っている。統廃合の関係もあり、活動の中心地区を隔年で変えているのではないかと推測される。

【委員】 ドリームコースについて、これまでどのような団体がどのような活動をしてきたか聞きたい。

【事務局】 令和3年度は2団体が実施した。柏崎ファミリードッグ&柏崎ファミリーキャットによる動物愛護に関する講座「アニマルウェルフェア教室」と、柏崎市青少年健全育成市民会議によるトライウォークを実施した。過去には STK による科学教室の開催などがある。ドリームコースの歴史は長く10年以上にわたって実施してきた。詳細は次回一覧を提供する。

【委員】 毎年各団体が単発的に実施しているのか。

【事務局】 そのとおり。

【会長】 応募企画書があり、それをもとに対象となるか審査している。

【委員】 いきいきゲームについて、教材費は生徒一人に対してか、一クラスに対してか。

【事務局】 教材費の単価は一クラス当たり 34,000 円と定められている。生徒の人数にはよらない。

【委員】 自然体験コースについて、今年度ははまなす特別支援学校が希望してきたとのことだが、何か働きかけをしたのか。

【事務局】 令和2年度より年度の初めに募集をする際、市内の特別支援学校にも案内を送っている。これまでは反応がなかったが、今年度は詳しい内容を聞きたいということで学校から電話があった。

(3) かしわざきこども大学事業継続アンケートの集計結果及び今後の事業展開について

※当日配布資料に基づき説明 【事務局】

・かしわざきこども大学の事業継続についてのアンケート集計結果

アンケートの1つ目については、全委員の方から「予算規模を縮小して事業を1年でも長く継続する」に回答いただいた。

2つ目の事業の優先順位については、優先順位1番に6点、6番に1点という方法で集計し点数を付けた結果、点数が高いものからこどもの笑顔創造プロジェクト、同点でキャリア教育コースと自然体験コース、ロボット工作コース、科学実験コース、ドリームコースという結果になった。

3つ目の自由記載については、コース自体を少なくするといった意見、コースは存続しつつもこども大学で負担する額を少なくするという意見、継続したいコースについての意見、財政関係の意見等、いろいろな意見をいただいた。

・かしわざき子ども育成基金今後の推移

現在の予算規模を継続した場合、令和7年度まで1,000万円前後で事業を続け、令和8年度520万円規模の事業を実施して終了となる。この現状と、アンケートで全員の方から「予算を縮小しての継続」という回答をいただいたことを踏まえ、令和5年度からは予算を縮小して事業を実施していく方向で進めたい。いつまで継続するかについて、事務局としては、こども大学開設20周年を迎える令和9年度までの継続を目標とし、そのために予算規模720万円前後で事業を実施していきたいと考えている。720万円前後の予算規模のイメージを2つ作成した。一つ目が、令和5年度から予算を721万円程度とする案である。この場合、令和9年度まで同じ予算規模で事業を行い、約2万円を残して終了する試算になる。二つ目が、案1より20万円減額した701万円程度の予算とする案である。この場合、令和9年度まで701万円規模で事業を行い、約100万円を残して終了する試算となる。

・予算縮小イメージ

それぞれの予算規模での事業イメージは、案1が、自然体験コースのバス借り上げ料を今年度の契約額が約64万円であることから90万円とし、キャリア教育コースは15クラスとしていたところ10クラスに縮小、ロボット工作コースは36万円減額の100万円に、科学・実験コースは昨年度の実績が9万円だったことから20万円に減額、ドリームコースは廃止、こどもの笑顔創造プロジェクトは上限30万円のところを15万円とした。案2は、案1からさらに科学・実験コースを廃止としたものである。案2はアンケート結果で下位だった2つを廃止した形とした。

－質疑・応答－

【委員】 最後の年に残った基金はどうするのか。

【事務局】 大きく余った場合は何かしらのコースを実施するか、学校教育活動推進事業に充当して残額を0円とし終了することを想定している。

【委員】 科学・実験コースをやめた場合、その分の20万円を他の事業に回すのも一つの手ではないか。

【委員】 学校の統廃合はいつからか。統廃合によって応募してくる学校数が変わり、未知数ではあるがこども大学に影響してくることも考えられる。

【事務局】 市や教育委員会側が考えた方針の中では、令和6年度に1回目の統廃合を計画している。現在、審議会を設けて議論いただいているところである。

【委員】 案2では令和9年度の残額が100万円とあるが、もっと残ったとすれば令和10年度まで続ける可能性も今のところあるのか。

【事務局】 残る金額にもよるが、結果としてもう一年延長となる可能性も考えられる。

【委員】 ドリームコースが廃止の案だが、単年度で様々なことを行う活動よりは、こども大学で伝統となり子どもたちも楽しみにしているこどもの笑顔創造プロジェクトやキャリア教育コース、自然体験コースを柱としてやっていくという案の方が納得値は高い。現場のニーズがあるものを残すのがよいと感じている。

【会長】 案1と案2どちらにするかの決定ではないが、どちらの方がより賛成できるか意見を伺いたい。

【委員挙手】 案１：１名 案２：６名

【会長】 必ずしも令和５年度からこの通りになるということではなく、令和４年度中に審議をしながら、令和５年度に向けていくということである。

【委員】 一番心配なのは、基金が底をついた時点で全ての活動はしないとなること。キャリア教育コースやロボット工作コースは、今まで当たり前のように学校の年間行事に組み込まれており、来年からやりませんとなるのは辛い。こども大学から離れたところで事業を続ける等の模索を市の方でできないか。別の形で残すにしても、底をつくときにいきなり話が出て間合わないのでは、今から何年かかけて話をしていかなければならないと思う。規模を縮小してでも市で継続していただけるとありがたい。

【会長】 基金をもとに教育活動を行う自治体は他にあるのか。基金がない場合、財源はどうしているのか。保護者負担か、各学校の後援会費なのか、市が助成している場合もあるか。次回、他市の状況を情報としてあげていただきたい。

【委員】 各学校から費用は負担してもらい、手配は市が行うという形で事業を継続することは可能か検討してほしい。

【会長】 あと５年の間に、今後の予算の出どころについて規模の縮小と同時進行で検討してもらいたい。

【委員】 自然体験コース、キャリア教育コース、こどもの笑顔創造プロジェクトを中心とした活動に賛成。科学・実験コースは近いもので科学の祭典がある。ロボット工作コースはもっと参加人数が増えてほしい。

【委員】 学校教育活動推進事業がアンケートになかったのは、交付金という性質だからか。

【事務局】 もともとこども大学の総合学習コースを一部吸収する形で、他の事業とも統合し、学校教育活動推進事業が立ち上げられた。事業の一部費用として基金から２３９万円を充当している。充当額は事業統合の際決定した額であり、減額は難しい。他のコースとは性質が異なるためアンケートの一覧からは除外した。

【委員】 キャリア教育コースについて、講師の講習は次回何年後か。

【事務局】 現時点では実施の予定はない。一度講習を受けていただいた方にずっと講師をお願いしている状況。講師の高齢化も進み、体力的に厳しいという声もあがっている。事業を継続する場合、その点も今後の課題である。

【会長】 開設２０周年を迎える令和９年度まで続けるのは区切りはよい。ただ、また実施してく中で意見が出てくるかもしれない。今回は決定というより方向性の確認ということで捉えていただけるとありがたい。

４ 連絡事項【事務局】

(1) 今後のスケジュールについて

- ・第２回運営協議会…１０月中旬を予定（令和４年度（２０２２年度）実施事業の報告、令和５年度（２０２３年度）実施予定事業・予算の検討）
- ・第３回運営協議会…３月上旬を予定（令和４年度（２０２２年度）実施事業の報告）

(2) その他

- ・本日の報酬と交通費については、７／２１（木）振込予定。

- ・令和3（2021）年度事業報告について実績報告書を作成し、原案を8月に送付する。
御意見等あれば連絡をいただきたい。

【委員】 アンケートにもあったが、お茶はもういらないのでは。⇒次回からなし。

【委員】 こども大学の事業が各団体にとってどれくらいのウエイトがあるのか、アンケートを取ってみるのも一案。

5 閉会 教育部長

長時間にわたり御意見いただき感謝。コロナ禍というのが長く定着してしまった。学校生活や、地域活動、行事、イベントが中止や大きな制限、制約の中で行わざるを得ない状況が続いている。こども大学についても、対策を講じながらこれからも安全に、また前向きに進めていきたい。こども大学開設15年目となり、子どもたち、学校、地域にも根付いた事業となった。今後の事業展開について提案させていただき大きな方向性は協議いただいたところではあるが、事業が終わった後どうなるのかというご心配の声もいただいたので、今後どういう形がよいかまた検討していきたい。今後ともよろしく願いたい。